

これからの県立高等学校の活性化について

1 県立高等学校活性化計画について

県立高等学校の活性化については、「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月策定、期間は令和4～8年度までの5年間）に基づき、これからの時代を生きていく子どもたちが、変化を前向きにとらえ、課題と主体的に向き合いながら、自ら学び、考え、多様な人々との協働をとおして、持続可能な社会を創っていく力を身に付けられるよう取組を進めています。

また、本計画に基づき、1学年3学級以下の高等学校がある6地域に活性化協議会を設置し、15年先までの中学校卒業生数の減少の状況をふまえ、地域の高等学校の学びと配置のあり方について協議を進めています。

（1）活性化の取組

①自律した学習者を育てる学びの推進

基礎・基本を重視し自己肯定感を高める教育の推進／キャリア教育の推進／

探究活動の推進／高等教育機関等と連携した教育の推進／

地域に根ざした教育の推進／ICTの活用による学びの推進

②これからの社会の担い手となる力の育成

よりよく生きようとする態度の育成／社会の一員としての自覚と責任感の育成／

グローバル教育の推進

③誰一人取り残さない教育の推進

特別な支援を必要とする生徒への支援／不登校の状況にある生徒等への支援／

日本語指導が必要な生徒への支援／経済的困難な状況にある生徒への支援／

学びに向かう力を育む教育の推進／交通が不便な地域における生徒の学習機会の提供

④人口減少に対応した学びの推進

協働の学びの機会の確保／学習活動の機会の確保

⑤子どもたちに必要な学びの実現に向けた教職員の資質向上と学校経営改善

教職員の育成／授業力の向上／組織運営体制の強化による教育活動の活性化

⑥これからの時代に必要な力を育む県立高等学校の各学科・課程の活性化

普通科・普通科系専門学科／職業系専門学科／総合学科／定時制課程・通信制課程

（2）これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- 平成29年度から地域の協力を得て取組を進めてきた3学級以下の小規模校活性化の検証結果、令和2年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業生の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求め

られる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあります。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととします。これらについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとし、協議が必要となる地域に協議会がない場合は同様の場を設けるものとします。

- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとします。
- 1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととします。
- 入学者が2年連続して20人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とすることとします。

2 次期計画について

次期計画（計画期間は令和9年度～）の策定を見据えた検討にあたっては、各地域の活性化協議会における共通した次の考え方を尊重します。

- 大学進学ニーズに応える一定規模の普通科が必要である。
- 多様な学びの選択肢をできる限り維持する必要がある。

一方、少子化は、更に加速しており、平成元年3月に29,994人であった県内の中学校卒業生数は、令和6年3月には15,891人となり、令和21年3月には、その約6割となる9,615人にまで減少することが想定されています。こうした状況の中、地域の活性化協議会からは、次の課題が指摘されています。

- 15年先を見据えると、地域の中だけで多様な学びを提供することは困難である。
- 校舎の建替え等を考えると、長期的な視点に立った検討が必要である。

このことから、次期計画では、県内全域を見通した長期的な視点に立つ考え方を具体的に示す必要があります。

3 各地域の活性化協議会の開催状況について

各地域の活性化協議会の開催状況は以下のとおりです。

(1) 鈴鹿亀山地域

ア 令和6年度の協議（3回開催）

令和6年度に実施した中学生や保護者へのアンケート調査の結果をふまえながら、当地域において15年先に実現したい学びや育みたい力、今後の検討の方向性などについて協議を進めました。

イ 主な意見

- 部活動が充実していることは、高校を選択する際の大きな魅力の1つとなっている。全ての高校が小規模化されて、十分な部活動ができなくなってしまうよう、部活動の活性化という視点も大切にしてほしい。
- 大学進学に対応する一定規模の普通科高校は必要だが、過去の生徒急増期に普通科の定員を大きく増やしたことから考えると、今後は多様な学びの選択肢を維持しつつ、普通科を中心に定員を減らしながら学びを集約していく方向になるのではないかな。
- 隣接地域への流出を食い止めるためにも、工業をはじめとする専門性の高い学びの充実は当地域の願いであり、学科の設置だけでなく、普通科におけるコースの設置や他校との連携など、さまざまな方策を検討しながら実現につなげてほしい。

ウ 今後の予定

令和10年度に中学校卒業生数の大幅な減少が見込まれていることから、その対応について、令和7年度に協議会としての考え方を取りまとめます。

(2) 津地域

ア 令和6年度の協議（2回開催）

これからの当地域高等学校の学びと配置を考える上で大切にしたいことや、今後議論を深めていくために必要な視点などについて協議を進めました。

イ 主な意見

- 小規模校には、全ての職員が個々の生徒の抱える背景等を把握したり、丁寧に関わることができたりするなど、小規模校ならではのよさがある。一方で、多様な選択科目の開設、少人数・習熟度別指導の実施、社会・理科・芸術等における専門性の高い教員の配置、多様な進路への対応など、子どもたちの学びに関しては、学校規模があることのメリットは大きい。
- 当地域に多く設置されている普通科高校の特色化・魅力化を図るため、

学際領域学科や地域社会学科など普通教育を主とする学科や総合学科への改編も検討してはどうか。また、地域と連携した学びを推進していくために、当協議会において地域の方の意見を聞くことも必要ではないか。

- 今後の当地域の高校の学びと配置のあり方を考える際には、隣接する鈴鹿亀山、伊賀、松阪地域の協議会の検討状況も考慮する必要がある。また、15 年先の中学校卒業生数を考えると、特に専門学科のあり方等については、県全体で検討していく必要があるのではないかな。

ウ 今後の予定

令和 7 年度に中学生と保護者を対象とするアンケート調査を実施し、普通科の特色化・魅力化を中心として、当地域の高校の学びと配置のあり方について協議を進めます。

(3) 伊賀地域

ア 令和 6 年度の協議（3 回開催）

「令和 5 年度伊賀地域協議会のまとめ」や令和 6 年度に実施した中学生や保護者へのアンケート調査の結果をふまえ、今後想定される段階的な学級減への対応について検討を進めました。

イ 主な意見

- 難関大学への進学に対応できる学科・コースを持つ高校、専門性の高い学びができる高校、不登校を経験した子どもたちが安心して通えるような小規模の高校、それぞれにニーズがあると感じる。ただし、少子化の進行を鑑みると、現在の高校の配置をベースに考えるのではなく、交通の便がよいところに学びを集約するなど、機能面とハード面は分けて検討する必要がある。
- 15 年先には、当地域の高校は伊賀市に 1 校、名張市に 1 校となることが想定される。時代によって必要とされる学びや機能などのソフト面は変化するが、校舎の新築や建替えなどハード面は 10 年先を見据えた計画が必要となることから、どの場所に集約するのかを早期に打ち出す必要がある。
- 中学校卒業生数の減少により、学校数が減ることは致し方ないが、多様な学びの選択肢の維持と多様な子どもたちへの対応を同時に追求していく必要がある。

ウ 今後の予定

令和 6 年度に整理した「令和 7 年度まとめに向けた方向性」に基づき、令和 10 年度以降の学級減への対応について、令和 7 年度に協議会としての考え方を取りまとめます。

(4) 松阪地域

ア 令和6年度の協議（3回開催）

令和6年度に実施した中学生や保護者へのアンケート調査の結果をふまえながら、令和11年度までに想定される学級減への対応の方向性について協議を進め、当協議会を設置した令和4年度から6年度までの協議のまとめを策定しました。

イ 主な意見

- 当地域の特色ある多様な学びの選択肢を維持するため、学科間連携の視点を持ちながら、専門学科の集約をどのように図るかを検討する必要がある。
- 学校規模について議論する際には、特別な支援を必要とする生徒や不登校傾向にある生徒など、多様な背景を持つ生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にするという視点をまとめに加筆する必要があるのではないかと。
- 15年先を見据えた方向性を取りまとめるためには、校舎の老朽化も念頭に置く必要がある。次回の協議会では、県立高校の校舎の状況や建替えに関する資料を提供してもらいたい。

**「令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ
～今後の学びと配置のあり方について～」の要点**

- ・ 今後の当地域における高等学校の学びと配置のあり方については、これまでに協議してきた「基本的な考え方」や「再編を検討するうえで大切にしたいこと」をふまえる。
- ・ 令和8年度に見込まれる1学級減への対応については、中学生の進路選択に大きな影響を及ぼすことがないように、学校の統合ではなく学級減で対応することが望ましい。
- ・ 令和10年度から11年度にかけて見込まれる4学級程度の大幅な学級減への対応については、学校の再編も含めて協議を進め、令和8年度までに段階的に協議会としての方向性を取りまとめる。

ウ 今後の予定

令和11年度に中学校卒業生数の大幅な減少が見込まれていることから、その対応について、令和8年度までに協議会としての考え方を取りまとめます。

(5) 伊勢志摩地域

ア 令和6年度の協議（3回開催）

当協議会の「令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）」

をふまえ、令和 13～15 年度頃までに想定される断続的な学級減への対応について、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」の 2 つの視点から協議を進めました。

イ 主な意見

- 不登校の子どもたちが増えている中、既存の学びのスタイルありきではなく、遠隔授業なども取り入れながら、全日制課程だけでなく通信制課程や定時制課程を含めて多様な学びに対応していく必要がある。
- 当地域には普通科、多様な専門学科、総合学科がバランスよく配置されていることから、通学の利便性も考慮し、できるだけ当地域内での再編を考えたい。
- 15 年先に実現したい学びや学校像から逆算して、その過程として再編を考えることは大切だが、15 年先の総学級数を考えると、かなり思い切った再編が必要になることが想定される。

ウ 今後の予定

令和 10 年度に中学校卒業者数の大幅な減少が見込まれていることから、その対応について、令和 7 年度に協議会としての考え方を取りまとめます。

(6) 紀南地域

ア 令和 6 年度の協議（2 回開催）

令和 7 年 4 月に木本高校と紀南高校を統合して開校する熊野青藍高校について、両校の校長をリーダーとするワーキング会議における検討状況を共有し、学びや部活動のあり方などについて協議を進めました。

イ 主な意見

- 探究的な学びや「東紀州未来学」は、熊野青藍高校の大きな強みとなるはずだが、具体的な中身が伝わってこない。和歌山県の高校への進学を希望する中学生もいる中、子どもたちにもっとわかりやすく新校の魅力を伝えてほしい。
- 中学生の志望が時間とともに県立高校から県外の高校へと移っていく傾向は、統合前と変わっていない。この要因をしっかりと分析し、小中学校と連携しながら、熊野青藍高校の魅力化や子どもたちや保護者への情報発信に取り組んでほしい。

ウ 今後の予定

令和 7 年度も協議会を開催し、熊野青藍高校の活性化に向けた協議を行います。なお、新しく制定した校歌と校章については、令和 7 年 3 月中に公表する予定です。

4 地域の県立高校に関するアンケート調査の結果について

鈴鹿亀山地域、伊賀地域、松阪地域の活性化協議会では、今年度9月から10月にかけて、地域の公立中学校2年生の生徒、公立中学校2年生と公立小学校5年生の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。

調査結果の概要は以下のとおりです。

(1) 高校を選ぶときに重視する点

次の内容の選択肢から6つ以内を選択

- ① 学びたい学科やコースがある
- ② 確かな学力を身につける授業の充実
- ③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる
- ④ 興味関心に応じて多様な学びが選択できる
- ⑤ 地域と連携した活動が充実している
- ⑥ 文化祭や体育祭など学校行事が充実
- ⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている
- ⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い
- ⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる
- ⑩ 通学のしやすさ・距離 ⑪ 学校の雰囲気・イメージ ⑫ 施設・設備の充実
- ⑬ 進学・就職の実績 ⑭ 自分の適性や能力
- ⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見 ⑯ 学費などの経費負担
- ⑰ その他（自由記述）

【生徒】

	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	53.1%	48.0%	49.0%
⑩ 通学のしやすさ・距離	50.5%	49.8%	49.3%
⑥ 文化祭や体育祭など学校行事が充実	47.6%	46.0%	42.4%
① 学びたい学科やコースがある	39.1%	42.7%	39.5%
⑦ 入りたい部活動、部活動が活発	33.9%	35.3%	35.7%

※ 各地域での回答者に対する割合を合算した数値の上位5項目

【保護者】

	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
① 学びたい学科やコースがある	69.6%	71.2%	73.3%
⑩ 通学のしやすさ・距離	69.3%	68.1%	64.4%
④ 興味関心に応じて多様な選択ができる	58.7%	63.3%	59.4%
② 確かな学力を身につける授業の充実	38.9%	42.8%	39.2%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	41.8%	35.6%	38.2%

※ 各地域での回答者に対する割合を合算した数値の上位5項目

(2) 高校に期待する教育

次の内容の選択肢から5つ以内を選択

- ① 自ら学び続ける力が身につく教育
- ② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育
- ③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育
- ④ 地域を題材として学ぶ教育 ⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育
- ⑥ 人権に対する意識が高まる教育 ⑦ 基本的な知識が身につく教育
- ⑧ ICTを積極的に活用する教育 ⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育
- ⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育
- ⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
- ⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
- ⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育
- ⑭ その他（自由記述）

【生徒】

	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
① 自ら学び続ける力	52.0%	54.0%	52.6%
⑦ 基本的な知識	48.0%	46.2%	43.1%
⑪ 社会人として必要なマナーや責任感	46.9%	44.2%	42.0%
⑩ 社会性やコミュニケーション能力など	42.0%	43.2%	40.1%
② 自ら問いを見つけ主体的に取り組む力	34.1%	32.3%	30.6%

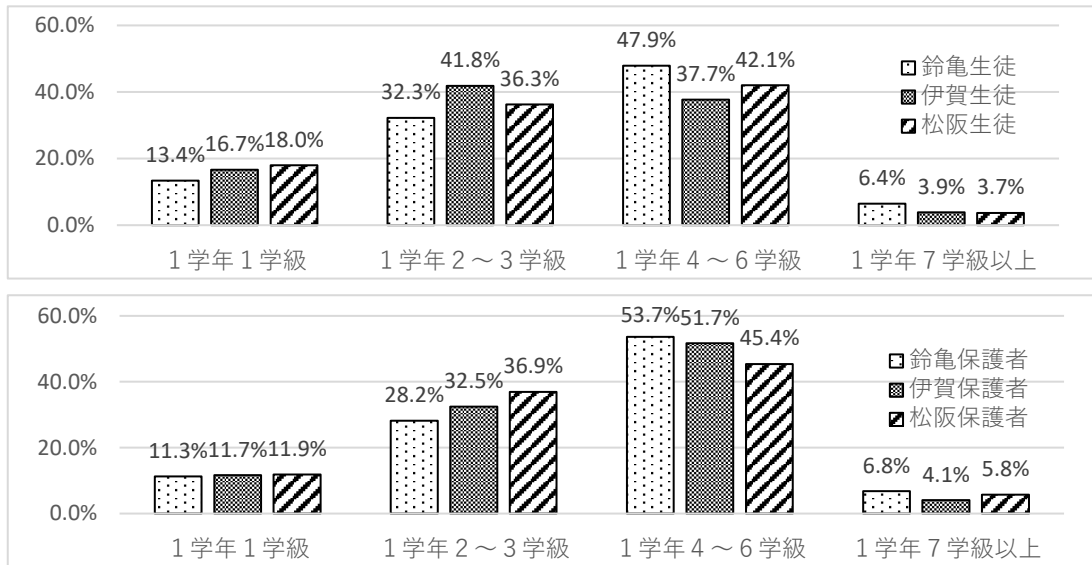
※ 各地域での回答者に対する割合を合算した数値の上位5項目

【保護者】

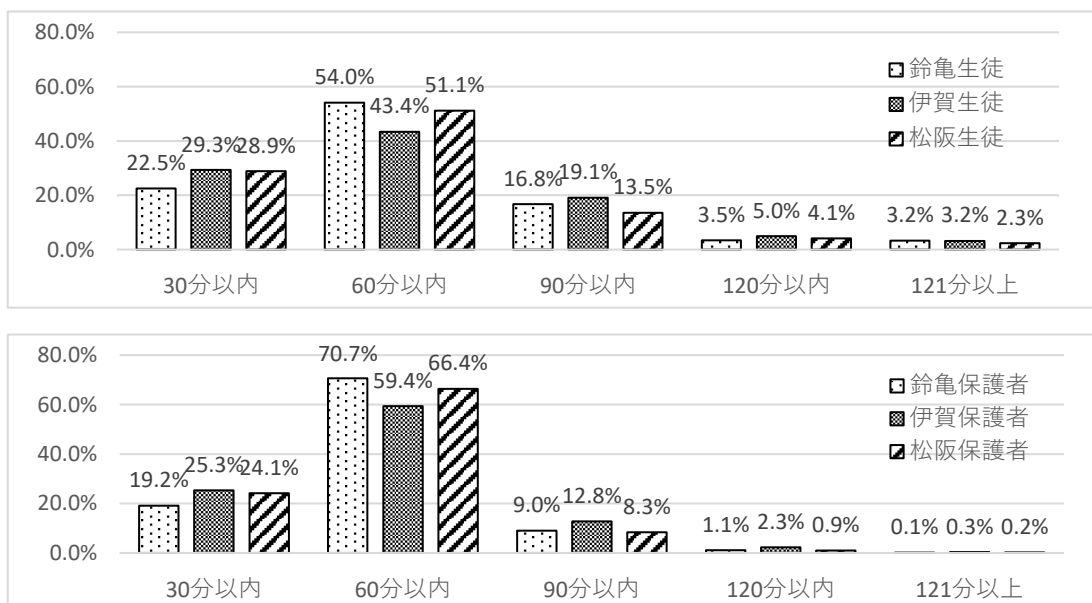
	鈴鹿亀山	伊賀	松阪
① 自ら学び続ける力	58.5%	59.5%	61.0%
⑩ 社会性やコミュニケーション能力など	58.5%	58.8%	60.7%
② 自ら問いを見つけ主体的に取り組む力	50.4%	51.8%	53.6%
③ 多様な選択肢から進路を決定する力	49.6%	52.9%	49.0%
⑪ 社会人として必要なマナーや責任感	46.1%	44.1%	47.1%

※ 各地域での回答者に対する割合を合算した数値の上位5項目

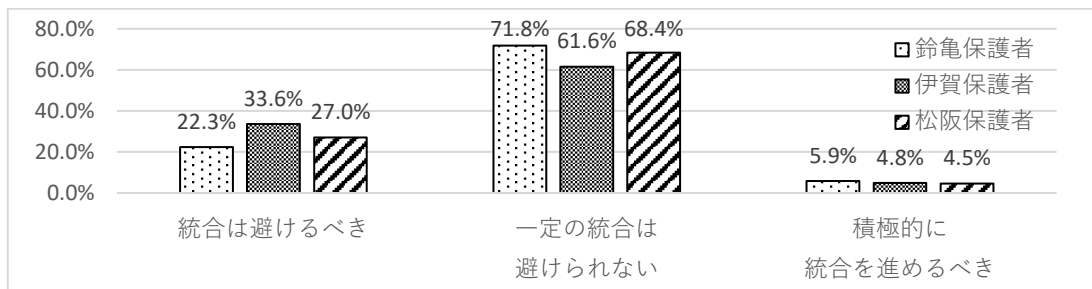
(3) 希望する学校規模



(4) 許容できる通学時間

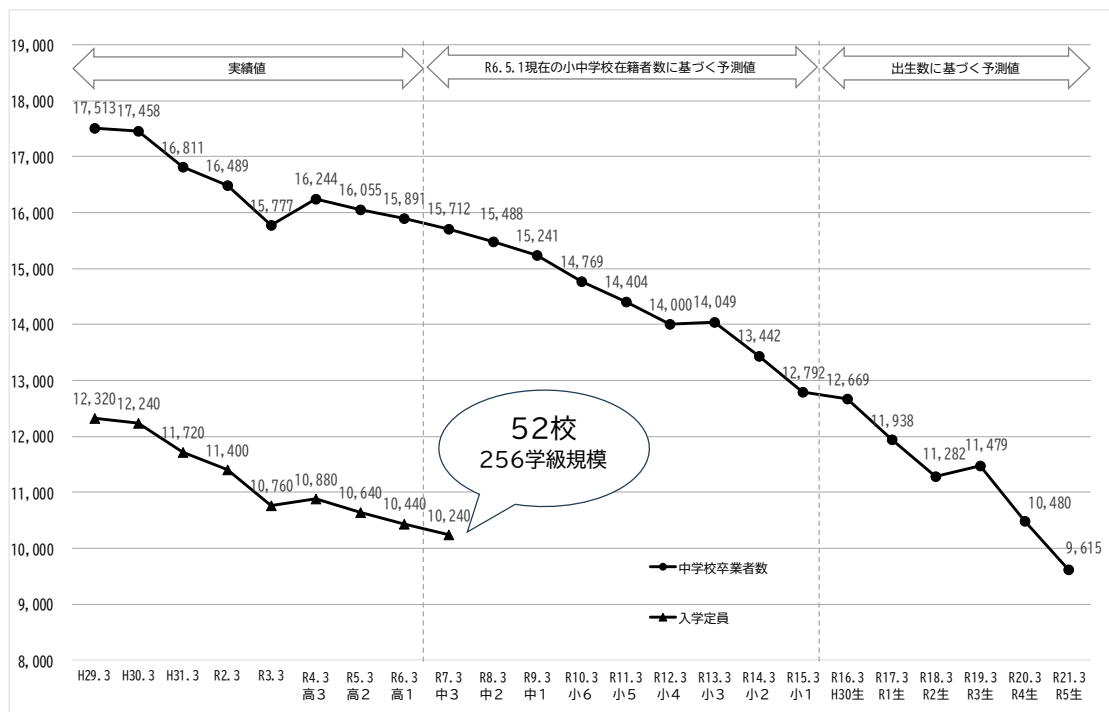


(5) 今後の地域の県立高校のあり方

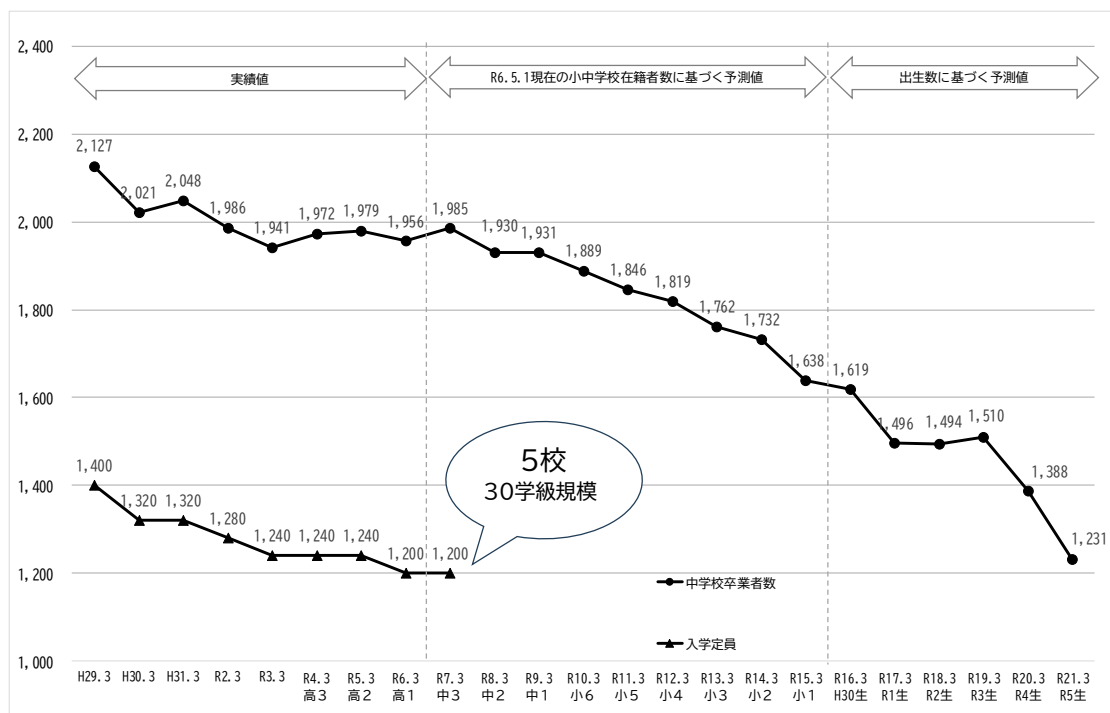


5 参考

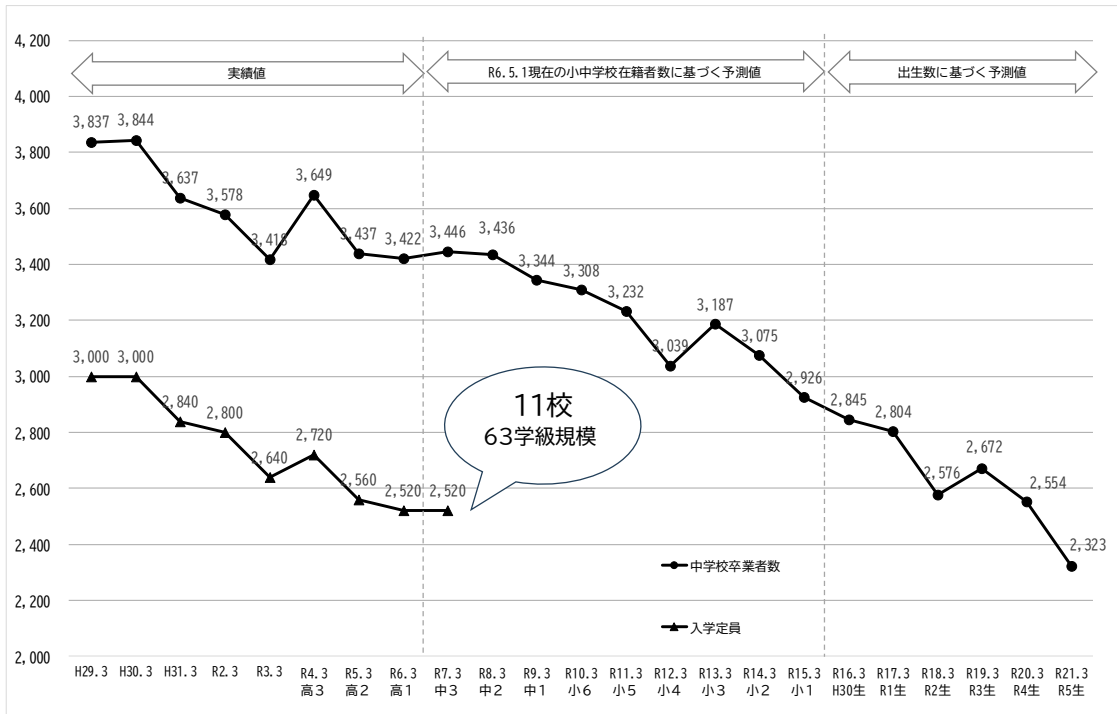
県全体の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



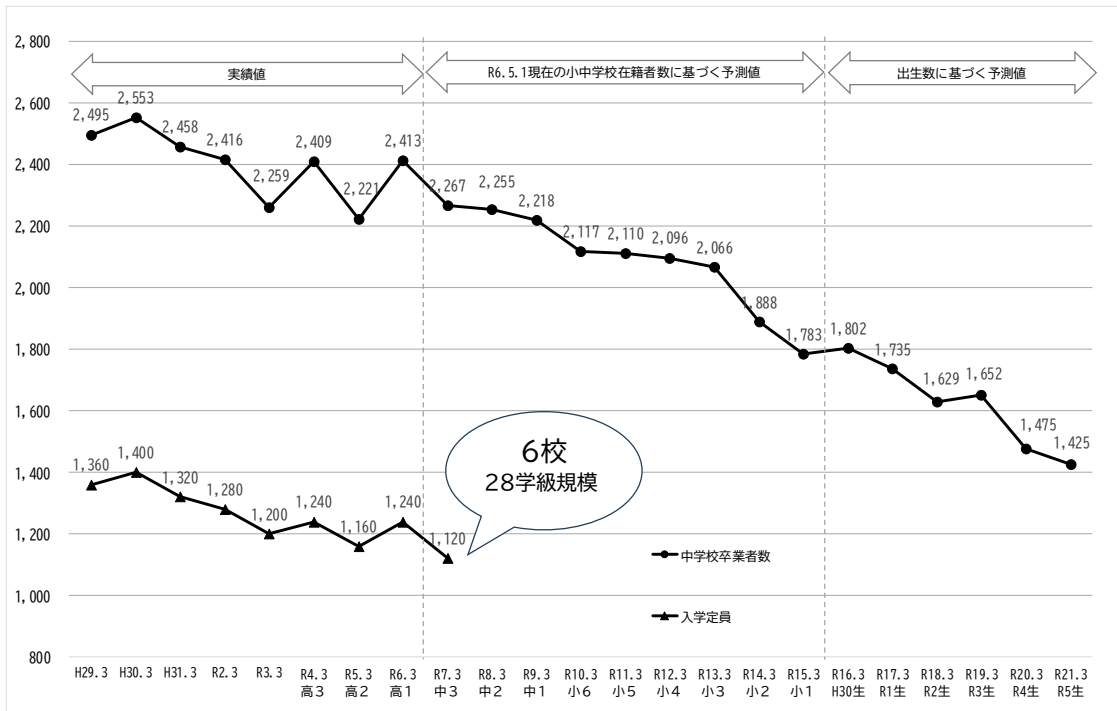
桑名地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



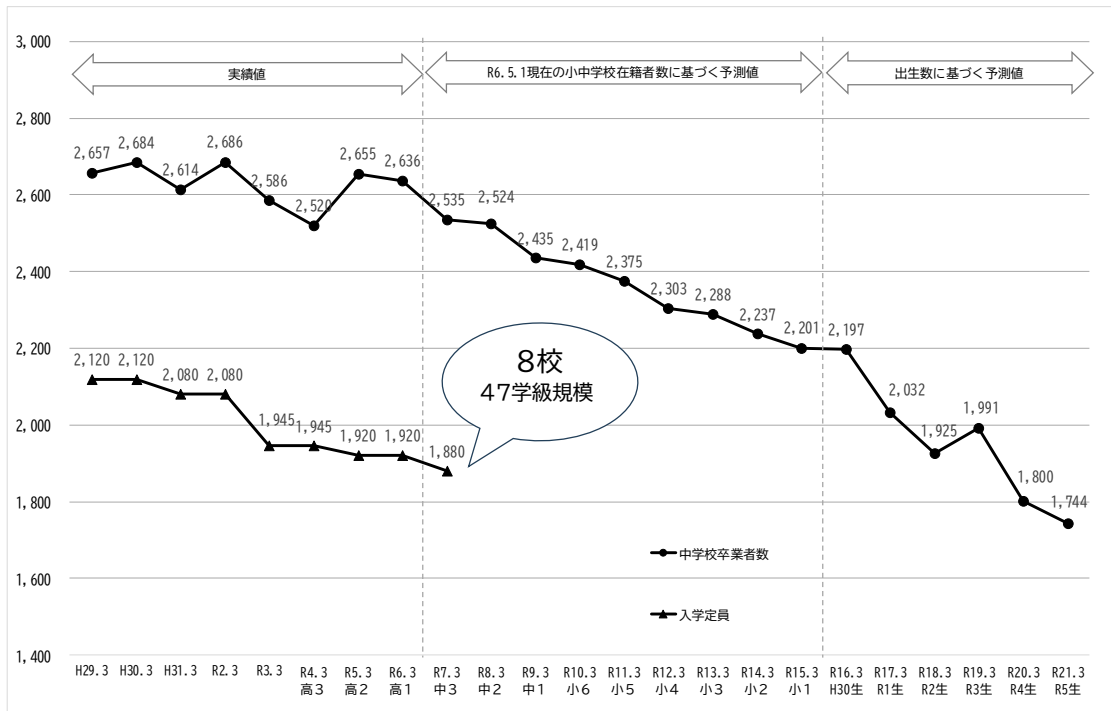
四日市地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



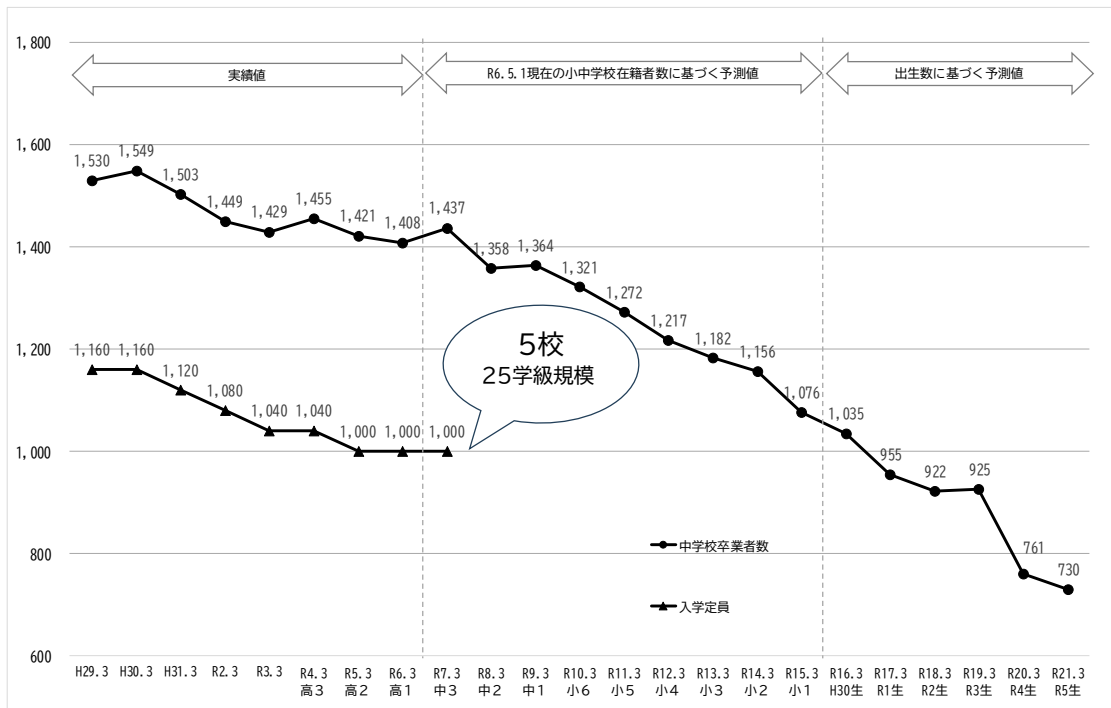
鈴鹿地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



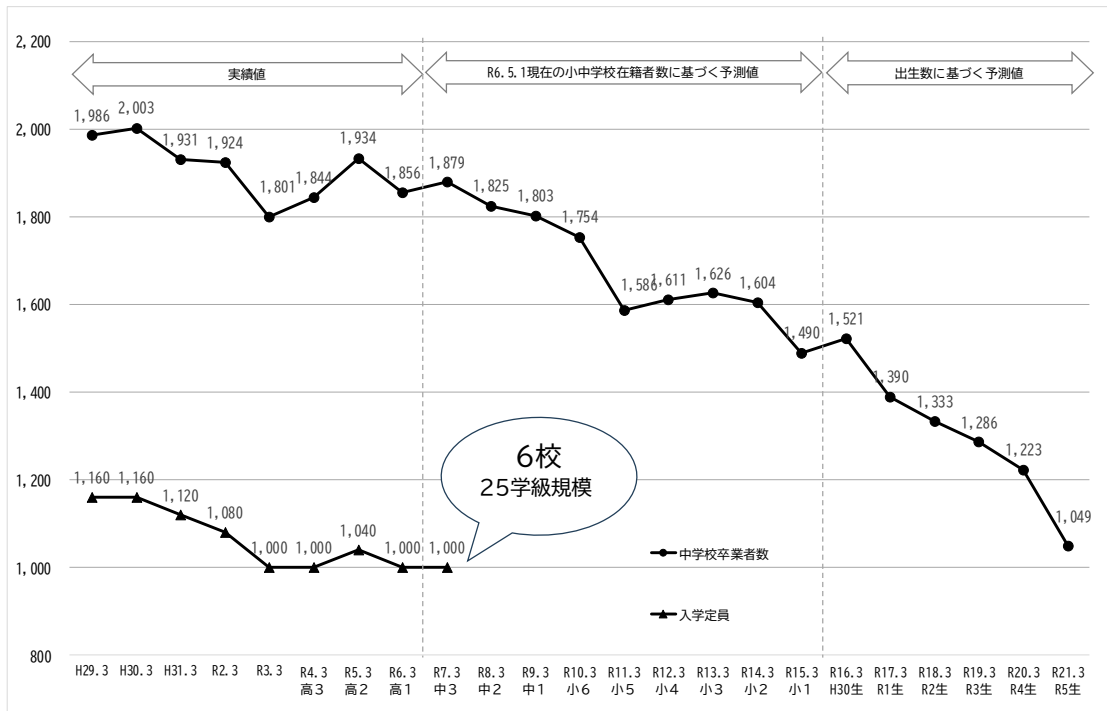
津地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



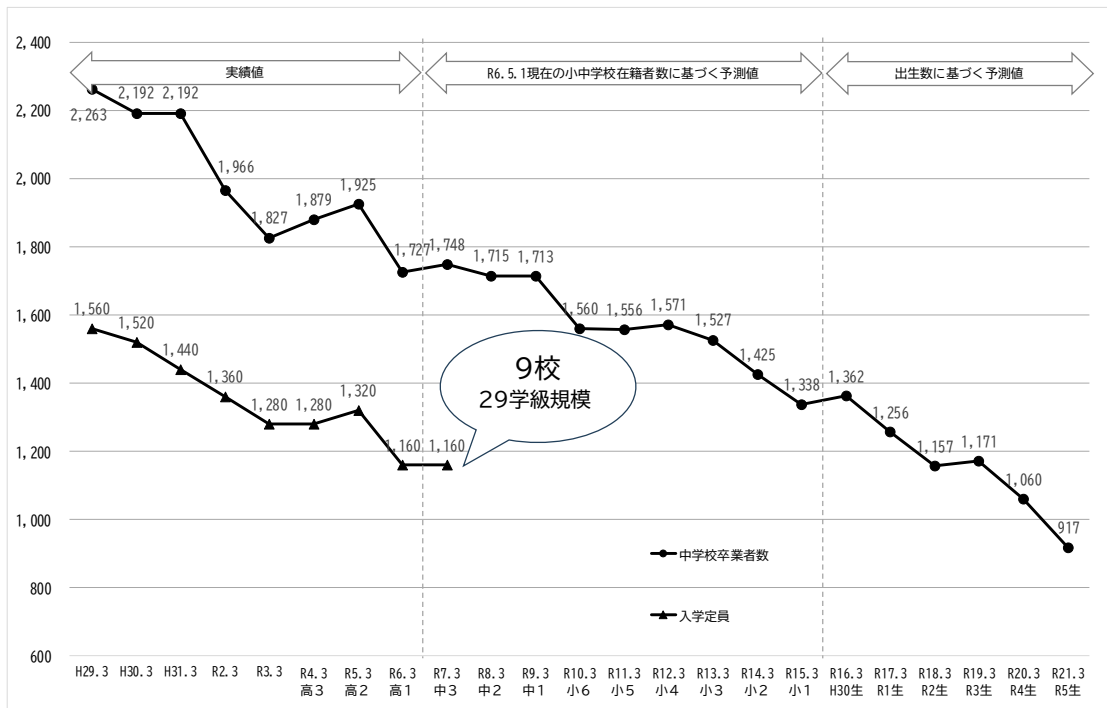
伊賀地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



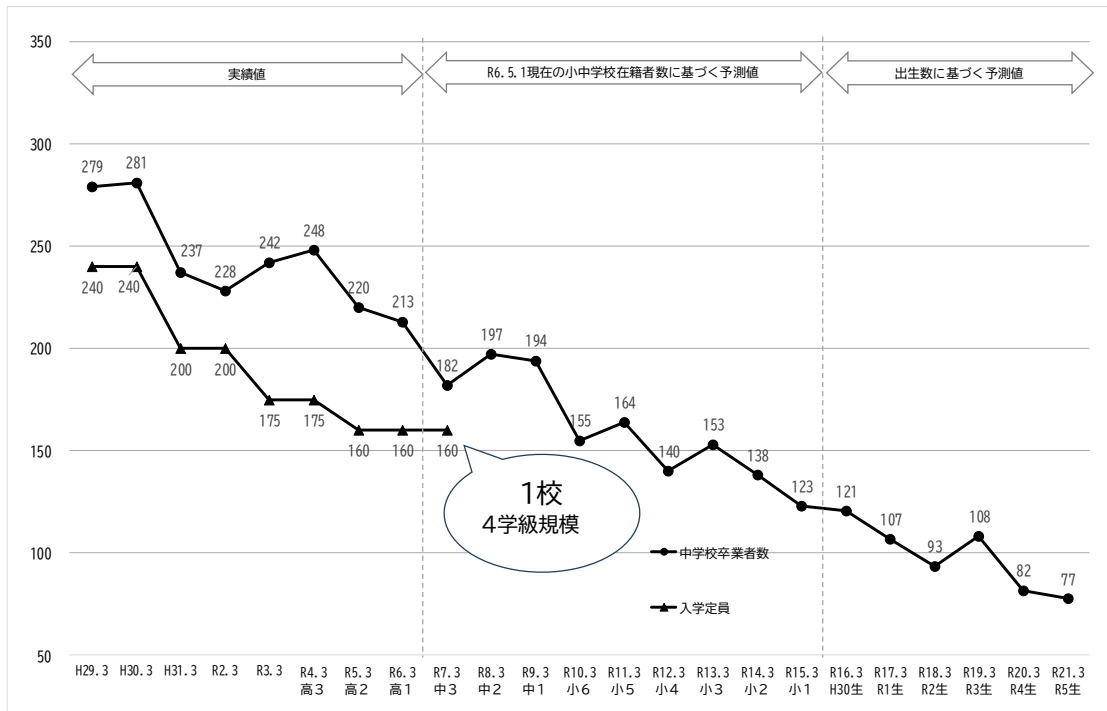
松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



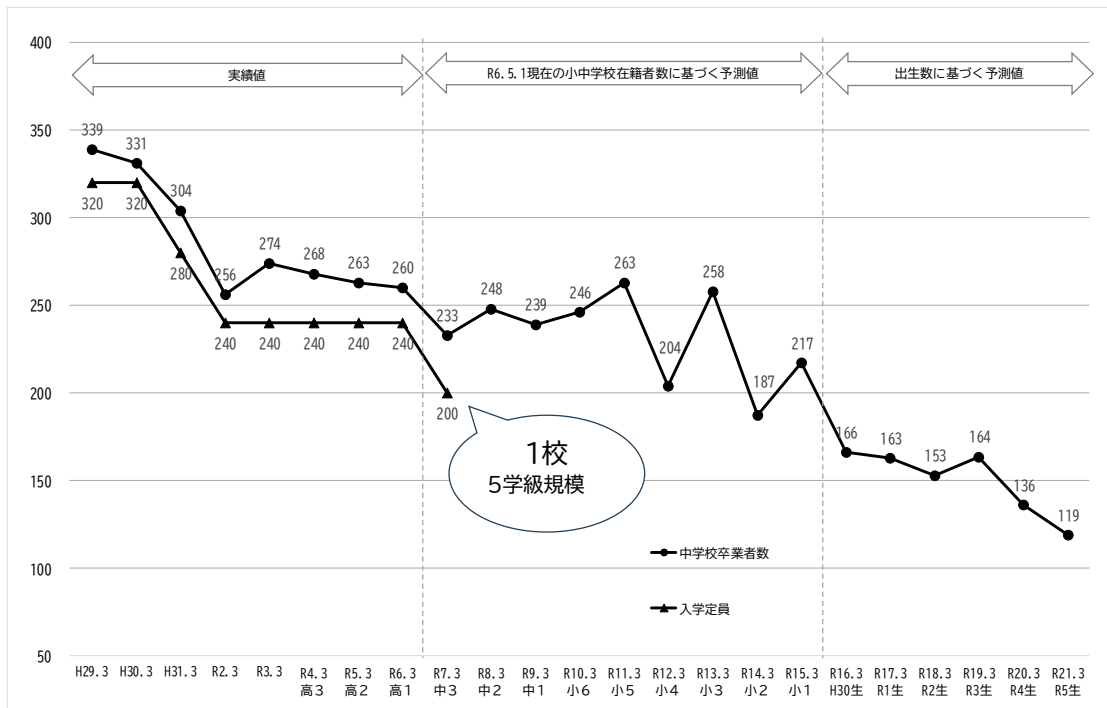
伊勢地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員（全日制）の推移



尾鷲地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学者数（全日制）の推移



熊野地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学者数（全日制）の推移



県立高等学校(全日制)の学校規模の状況(平成29年度1学年)

地域	入学生数 (中学校卒業 者数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	学校数
桑名	県立:1,400 私立: 320 (2,127)				桑名工(工)		桑名北(普)		桑名西(普) いなへ総合学園(総)	桑名(普管理)	5校 (35学級)
四日市	県立:3,000 私立: 866 (3,837)				孤野(普)		朝明(普福) 四日市四郷(普) 四日市中央工(工) 四日市農芸(農家)	四日市西(普) 四日市商(商)	四日市南(普) 四日市工(工) 川越(普他)	四日市(普)	11校 (75学級)
鈴鹿	県立:1,360 私立: 480 (2,495)				飯野(外他) 石薬師(普)		白子(普家) 稲生(普体) 龜山(普家情)		神戸(普理)		6校 (34学級)
津	県立:2,120 私立: 714 (2,657)			白山(普商)			津工業(工) 久居(普) 久居農林(農家)	津商(商)	津西(普他) 津東(普)	津(普)	8校 (53学級)
伊賀	県立:1,160 私立: 170 (1,530)		あけぼの学園(総)					上野(普理) 伊賀白鳳(農工商福)	名張青峰(普)		5校 (29学級)
松阪	県立:1,160 私立: 540 (1,986)		飯南(総) 昂学園(総)			松阪商(商他)	松阪工(工) 相可(普農家)		松阪(普理)		6校 (29学級)
伊勢	県立:1,560 私立: 570 (2,263)		水産(水) 鳥羽(総)	南伊勢(普) 志摩(普)		宇治山田商(商) 伊勢工(工) 明野(農家福)	宇治山田(普)		伊勢(普)		9校 (39学級)
尾鷲	県立:240 私立: 0 (279)						尾鷲(普工商)				1校 (6学級)
熊野	県立:320 私立: 0 (339)			紀南(普)		木本(普総)					2校 (8学級)
県全体	県立:12,320 私立: 3,660 (17,513)	0校	5校	4校	4校	6校	15校	5校	11校	3校	53校 (308学級)

【備考】

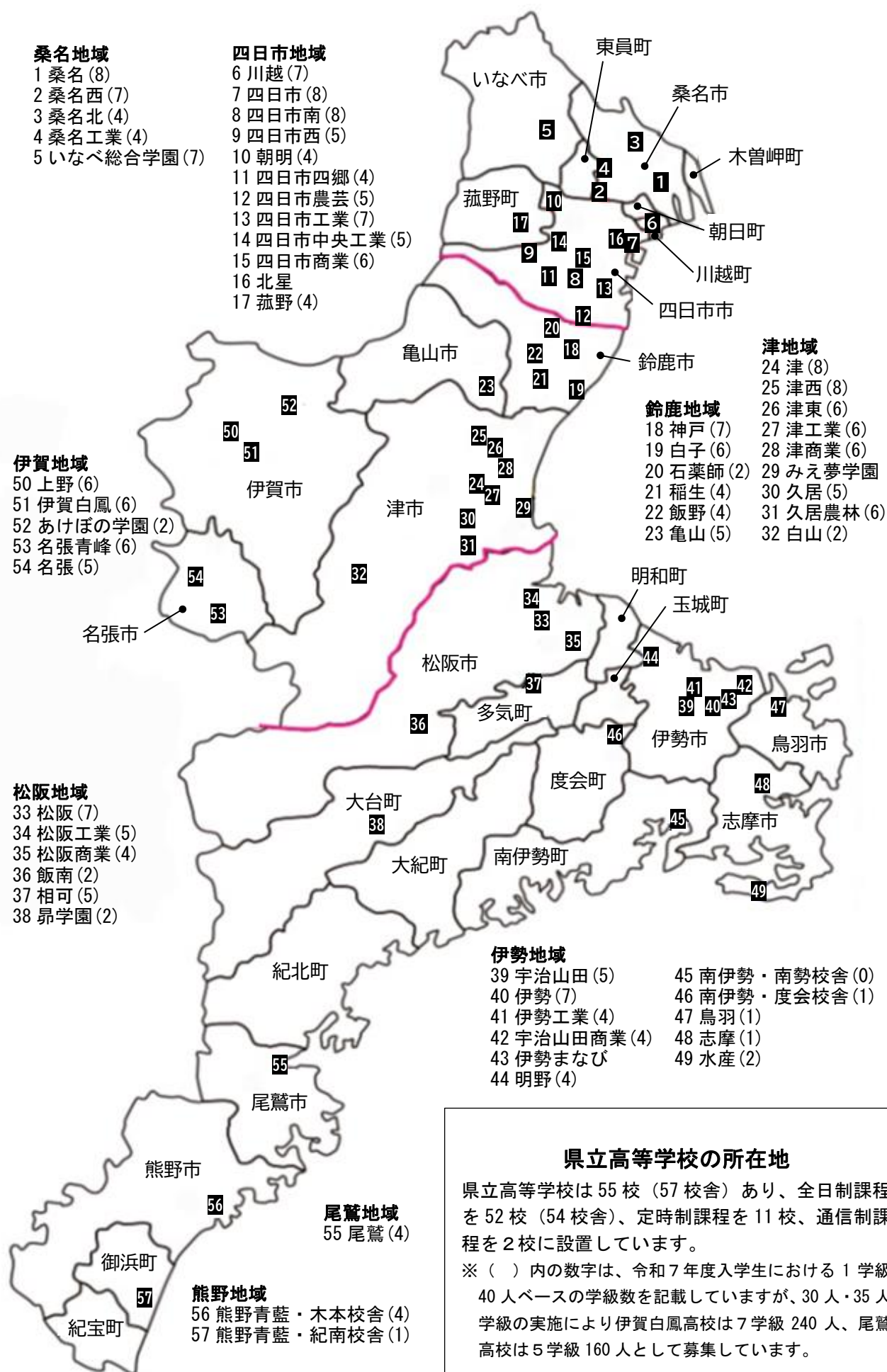
- 学科名略称:(普)普通科(普通科におけるコース制を含む)、専門学科{(農)農業(工)工業(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際文理、国際科学、国際教養、応用デザイン))、(総)総合学科
- 校舎制の南伊勢高校は、度々校舎2学級・南勢校舎1学級となっています。
- 私立高校の定員には、青山高校、愛農学園高校を含みません。

県立高等学校(全日制)の学校規模の状況(令和7年度1学年)

地域	入学定員 (中学校卒業 見込人数)	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	学校数
桑名	県立:1,200 私立: 320 (1,985)				桑名北(普) 桑名工(工)			桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普看護)		5校 (30学級)
四日市	県立:2,520 私立: 860 (3,446)				朝明(普福) 四日市四郷(普) 菟野(普)	四日市西(普) 四日市中央工(工) 四日市農芸(農家)	四日市商(商)	川越(普他) 四日市工(工)	四日市南(普)		11校 (63学級)
鈴鹿	県立:1,120 私立: 470 (2,267)		石薬師(普)		飯野(外他) 稲生(普体)	亀山(普家情)	白子(普家)	神戸(普理)			6校 (28学級)
津	県立:1,880 私立: 685 (2,535)		白山(普商)			久居(普)	津東(普) 津商(商) 津工(工) 久居農林(農家)		津(普) 津西(普他)		8校 (47学級)
伊賀	県立:1,000 私立: 155 (1,437)		あけぼの学園(総)			名張(総)	上野(普理) 伊賀白鳳(農工商福) 名張青峰(普)				5校 (25学級)
松阪	県立:1,000 私立: 530 (1,879)		飯南(総) 昂学園(総)		松阪商(商)	松阪工(工) 相可(普農家)		松阪(普理)			6校 (25学級)
伊勢	県立:1,160 私立: 545 (1,748)	南伊勢(普) 鷺羽(総) 志摩(普)	水産(水)		宇治山田商(商) 伊勢工(工) 明野(農家福)	宇治山田(普)		伊勢(普)			9校 (29学級)
尾鷲	県立:160 私立: 0 (182)				尾鷲(普工商)						1校 (4学級)
熊野	県立:200 私立: 0 (233)					熊野青藍(普総)					1校 (5学級)
県全体	県立:10,240 私立: 3,565 (15,712)	3校	6校	0校	12校	10校	9校	7校	5校	0校	52校 (256学級)

【備考】

- 学科名略称: (普)普通科(普通科におけるコース制、学際領域学科など普通教育を主とする学科を含む)、専門学科(農)農業、(工)工業、(商)商業、(水)水産、(家)家庭、(看)看護、(情)情報、(福)福祉、(理)理数、(体)体育、(外)外国語、(他)その他専門学科(国際探究、国際科学、応用デザイン)、(総)総合学科
- 校舎制の南伊勢高校は、度会校舎1学級・南勢校舎0学級・熊野青藍高校は、木本校舎4学級・紀南校舎1学級となっています。
- 1学級40人ベースの学級数を記載していますが、30人・35人学級の実施により伊賀白鳳高校は7学級240人、尾鷲高校は5学級160人として募集しています。
- 私立高校の定員には、青山高校、愛農学園高校を含みません。



県立高等学校の所在地

県立高等学校は 55 校 (57 校舎) あり、全日制課程を 52 校 (54 校舎)、定時制課程を 11 校、通信制課程を 2 校に設置しています。

※ () 内の数字は、令和 7 年度入学生における 1 学級 40 人ベースの学級数を記載していますが、30 人・35 人学級の実施により伊賀白鳳高校は 7 学級 240 人、尾鷲高校は 5 学級 160 人として募集しています。

I. これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態が地域・学校により非常に多様な状況にあるため、質の確保・向上に向けて、「多様性への対応」と「共通性の確保」を併せて進める必要

■ 多様性への対応

- 地理的状況や各学校・課程・学科の枠にかかわらず、いずれの高校においても多様な学習ニーズに対応し、潜在的なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現

■ 共通性の確保

- 「自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力」の育成
- 「自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その問に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力」の育成
- 「自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力」の育成
- 義務教育において修得すべき資質・能力の確実な育成など、「知・徳・体のバランスのとれた土台」の形成



II. 各論点に対する現状・課題認識と具体的方策

主な手段の凡例 ○：通知等 □：予算事業 ◇：調査 ☆：その他取組

1 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方

- 少子化の影響により多くの地域で統廃合が進行。今後15歳人口の減少は一層加速。小規模校の教育条件の改善が必要。
- 生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化が必要。

小規模校の教育条件の改善に向けて

- 教科・科目充実型の遠隔授業、全日制・定時制課程における通信教育の活用、学校間連携等の推進による学びの機会の充実に関する実証研究の実施
- 配信センターの体制・環境整備、学校間連携等の促進
- ◇ スクール・ミッション、スクール・ポリシー等を踏まえた学校教育活動の実施・改善、学校の特色化・魅力化
- ☆ 都道府県と市町村の連携、協力による学校運営
- 地域や学校を越えた生徒同士の学びのネットワークの構築
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入等による学校と地域社会の連携・協働の推進
- 学校における働き方改革の推進、コディネーター等の配置支援

2 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

- 不登校児童生徒数が義務教育段階を中心に増大。高校段階では通信制の生徒数が近年急増。
- 全日制・定時制・通信制いずれの課程にあっても、柔軟で質の高い学びを保障していくことが必要。

生徒の多様な学習ニーズに応える柔軟で質の高い学びの実現に向けて

- 不登校生徒の学習機会の確保
 - 自宅等からの同時双方向型の遠隔授業や通信教育の活用に関する実証研究、モデル事例の創出
 - ☆ 履修・修得の柔軟な認定の促進
 - 学びの多様な学校や校内教育支援センターの設置促進等
 - 不登校経験が不利益に扱われない高校入学者選抜等
- 定時制・通信制課程における優良事例の創出等
- ◇ 広域通信制の設置認可等に関する状況の把握等
- 通信制課程に係る情報公表や制度等に係る情報発信
- ◇ 不登校生徒に対する継続的な実態調査
- SC・SSWの配置充実、心理・福祉分野に強みや専門性を有する教師の育成等
- 公立通信制高校等の機能強化等
- 高校における特別支援教育の充実に向けた体制整備
- 外国につながる生徒の受入れに向けた体制整備

3 社会に開かれた教育課程、探究・文理横断・実践的な学びの推進

- 高校生の3割が家や塾で学習を「しない」と回答。
- 授業の満足度・理解度は学年が上がるともに低下。
- 多くの高校で文理のコース分けがなされ、特定の教科を十分に学習しない傾向。

全ての生徒の学びの充実に向けて

- 普通科改革の促進、コディネーターの配置支援を通じた探究・文理横断・実践的な学びの推進
- グローバル人材育成に資する拠点校の整備、留学をはじめ国際交流の促進、理数系教育の更なる充実
- 産業界等と専門高校の連携・協働の強化、専門高校を拠点とした地域人材の育成・地方創生の支援、専門高校の魅力の発信
- DXハイスクール事業の更なる推進
- ☆ 学習指導要領の理解や着実な実施、定着
- ☆ 学校における働き方改革の推進、教職員の配置を含む高校の指導体制の充実
- 教師の資質・能力の向上のためのオンライン研修コンテンツの開発支援、探究型の研修の開発・普及
- ☆ 大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進
- ☆ 教育費の負担軽減